

北海道 PCB 廃棄物処理事業監視円卓会議（第 55 回）開催結果概要

1 日時

令和 4 年（2022 年）6 月 1 日（水）13 時 30 分から 16 時 10 分

2 場所

PCB 情報処理センター（室蘭市御崎町 1 丁目 9 番地 8）

3 出席者

- ・ 円卓会議委員 11 名、伊達市、環境省、中間貯蔵・環境安全事業株式会社（JESCO）、北海道立総合研究機構
- ・ 事務局（北海道、室蘭市）
- ・ 傍聴者 22 名、報道 4 社

4 議事概要

(1) 第 54 回監視円卓会議議事録について【資料 1】

- ・ 前回会議の議事録について確認。特に質疑なし。

(2) 福島県対策地域内の高濃度 PCB 廃棄物の処理について

ア 福島県対策地域内の現地確認結果について【資料 2-1】

- ・ 室蘭工業大学の吉田准教授から、福島県対策地域内の現地確認結果について説明。

《主な質疑》

【委員】今回提示のあった処理対象物のリストと現地で確認されたものは別物か。

→【道】本日の資料のリストのうちの一部が集約されている状況の中、現地確認を行った（今回提示のあった一覧の中には、現地で確認した処理対象物が含まれている）。

【委員】今回ご説明いただいた内容と室蘭での処理をどのように結びつけて考えればよいのか。

→【吉田先生】現地ですべての処理対象物の表面汚染密度を測ることとされているが、どういう測定がされ、どういう測定結果が出るかを確認した。また、飛灰が大気中に出るという懸念があるが、現地の焼却施設では十分安全な処理が行われており、その手順に倣って処理を行うということなので、そうした手順を確認できた。

【委員】現地の焼却施設では、かつては放射能レベルの確認をしていたけれども、現在は未実施とあるが、搬入段階での放射能レベルの確認は、かつては行われていたのか。

→【吉田先生】10 年近くずっと測って、測定値が下がって非常に低いということで、必要ないとされた。現在は、定期的にごみピットの中の廃棄物を測っている。

【委員】報告の中身とは直接関係ないが、道からの意見聴取はリモートで行われたと聞いたが事実か。道はやりとりを記録して相手方に最終確認をすることになると思うが、実際にそういう形になったか。

→【吉田先生】電子メールも使ったが、ZOOMでコミュニケーションを取った。最終的に公開されている文書について、メールでこういう形になるというものを確認した。

【委員】現地の焼却施設では、放射性物質濃度を24時間連続測定しているとのことだが、こういった形で測定しているのか。例えば、1時間採取して24個のデータを得るという形か。それはここでもやれることか。

→【吉田先生】ばいじんを連続的に引いて、そこで残ったものをここで連続測定する形だと理解。現地では安心安全のために24時間連続でデータがでるシステムを使用しているが、これはかなりコストが高い。今回は、入ってくる廃棄物の放射能濃度が非常に低いことがわかっているので、正確に測定して安全性を担保してほしい。

イ 前回監視円卓会議での質問に対する報告等について【資料2-2、2-3】

・北海道及びJESCOから、前回の委員からのご意見に対する考え方について説明。

《主な質疑》

【委員】放射能を測るための排ガスの吸引量はどの程度か。

→【JESCO】通常の排ガスのばいじんを測る場合は約1時間の試料吸引を行うが、放射能を測る場合は4倍の約4時間の吸引をすることになっている。

【委員】現地で廃掃法に基づいて処理するという事は仕方がない面があると思うが、そういうところと室蘭を一緒にするということにかなり問題があるのではないか。

→（次回回答）

【委員】住民説明会等での意見を踏まえ、どういうプロセスで知事の決定がされたのか。

→（次回回答）

ウ 福島県対策地域内の高濃度PCB廃棄物の処理について【資料2-4、2-5】

・環境省から、福島県対策地域内の高濃度PCB廃棄物の処理について説明。

《主な質疑》

【委員】現地で検査して、室蘭に持ってきて（数値が）上がるということはないように思うがどうなのか。

→【環境省】もちろんそういう想定はしていないが、安心・安全を確保するためのダブルチェックという趣旨で測定を行う。

【委員】「放射性物質による影響がないこと」とあるが、どういう意味か。

→【環境省】4Bq/cm²以下という数字を基準として書かせていただいている。

【委員】別紙一覧にある表面汚染密度のバックグラウンドはどのように測定するのか。

→【環境省】対象となる測るものと全く別のほかのものから影響がない方向に測定器を向けて線量を測っている。

【委員】コンテナは何時ごろに東室蘭の貨物駅に着くのか。

→（次回回答）

【委員】4Bq/cm²以上の物は見つかっているのか。

→【環境省】これまでの測定では見つかっていない。あったとしても1 Bq/cm²といったレベルになるが、そうしたものは削り取り等を実施している。

【委員】4Bq/cm²以上の物が見つかったらどうするのか。

→（次回回答）

【委員】作業員の方の内部被ばくが起きないように対策が打たれているか。

→【環境省】削り取り作業は防塵マスク等で作業員の安全を確保しながら作業している。

【委員】バックグラウンドよりも表面汚染密度が低いものも結構多い。何をもってバックグラウンドといっているのか。

→（次回回答）

【委員】実際に関わる作業員に対する、十分な技術の指導とか、作業面についての細部にわたっての指導について配慮しているか。

→【環境省】作業員への教育というのもしっかりやっていただくように手配する。

《主な意見》

【委員】運搬車両の表示は、通常の産業廃棄物を運搬する際と同様のイメージとのことだが、少し小さいので大きくしてほしい。

【委員】万が一、放射性物質が付着しているとすると、容器とかペール缶になると思う。外側の容器のところの空間線量率を測定しておくということが非常に重要。

【委員】東室蘭の貨物駅にコンテナが到着するのであれば、速やかに問題がないようにいくためには、昼間に貨車がきてすぐにトラックに積み下ろして出発するというタイミングをよく理解する必要がある。

【委員】現地の表面汚染密度の測定結果はほとんどバックグラウンドの値に近い。室蘭で同じように測っていただき、それが室蘭のバックグラウンドと同様に処理対象物の測定値も下がるのであれば、汚染のレベルが非常に低いということがわかる。そういうデータを公開していただきたい。

【委員】室蘭市の空間線量のデータもあるはずなので、室蘭市が実際にどの程度の空間線量なのかというのを、室蘭市のホームページに掲載していただきたい。

【委員】資料 2-4) 別紙 1 の表面汚染密度のバックグラウンド自体に結構ばらつきがあるが、平均でいいのか。平均でいいとすると、平均だけではなく、標準偏差の 3 倍というのがどのくらいの値になるのか記載するとわかりやすい。

(3) 北海道 PCB 廃棄物処理事業の進捗状況等について【資料 3-1 ~ 3-7】

- ・ JESCO から、資料 3-1 から 3-5 により、PCB 廃棄物処理事業の現況、北海道事業の進捗状況、施設の稼働状況、トラブル事象等及び令和 3 年度総合防災訓練の実施結果について説明。特に質疑なし。
- ・ 北海道から、資料 4-6 及び 4-7 により、令和 3 年度の環境モニタリング測定結果及び立入検査実施状況について説明。特に質疑なし。

(4) その他【資料 4、5】

- ・ 北海道から、前回委員からご質問のあった輪西地区のベンゼンの挙動について説明。特に質疑なし。
- ・ 北海道から、PCB 廃棄物処理事業に係る国からの要請と道の回答について説明。

《主な質疑》

【委員】令和 8 年 3 月 31 日までに、工場の解体も含めてすべての事業が終わると認識していたが、それを変更するのか。

→【環境省】予備の処理期間という位置づけがなされていた「事業終了準備期間」を活用させていただくのが今回の要請の主旨。解体撤去をすべてこの時期までに終える約束はしていないが、一日も早く処理を終わり、早期に解体に着手していく。

【委員】この期間が終わった後、まだ処理しない方がいる場合はどうするのか。個人の責任で処理すると書いていたように思うが、方針が変わったのか。

→【環境省】今取り組んでいるのは、この期間までに終わらせるように、関係者の協力のもと全力で頑張ることだけ。その後どうするかは決まっていない。また、その後は個人の責任でというのは承知していない。

《主な意見》

【委員】掘り起こしの問題は相当前から意見してきて、やっと軌道に乗ったと考えていたが、こうした状態になったので、今行われている努力が十分なのか再検討する必要がある。